様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：３４５０４
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４７２０２７７

研究課題名（和文）韓国語の動詞性名詞研究－上級学習者向け実用テキストの開発

研究課題名（英文）An analysis of Korean Verbal Noun- developing teaching strategies for advanced learners

研究代表者
尹　盛熙（YOUN, Sunghee）

関西学院大学・国際学部・准教授

研究者番号：７０４５４７１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，韓国語教育の一環として韓国語の動詞性名詞（日本語の「説明＋する」の「説明」に当たるもの）を題材に，その特徴や使い方などを日本語と比べ，上級の韓国語学習に有効な指導方針を考えた．具体的には，日韓両言語の動名詞の違いを分かりやすく整理し，日韓の新聞見出しなど，動名詞が多く使われた資料を集めて分析した．その結果，韓国語の動名詞は，どのような意味を表すかによって使い方が影響される傾向が日本語より大きいため，指導ではその点が重視されるべきであることが分かった．また，動名詞は短い形式に多くの情報を盛り込むのに有効であるが，その盛り込み方は日韓で異なることも明らかになった．

研究成果の概要（英文）：In this research, Korean verbal noun has been analyzed to compare its characteristics and usage with Japanese verbal noun, as an approach toward developing efficient teaching strategies for advanced-level learners of Korean. Specifically, I described several differences and similarities between the two languages' verbal noun, and analyzed the headlines of Korean and Japanese newspapers, which is one major genre with an abundance of verbal noun examples. The results of the analysis show that the Korean verbal noun should be taught with great attention, as its usage is easily influenced by its semantic features, compared to its Japanese counterpart. Moreover, in both languages, using verbal nouns is a way of expressing something, that could be quite lengthy, more concisely. Furthermore, it allows almost the same amount of information to be conveyed as the lengthier version. The way of achieving it though, shows differences between two languages.

研究分野：韓国語学

キーワード：動詞性名詞　韓国語　新聞見出し　情報伝達　上級学習者

１．研究開始当初の背景

(1) 「動詞性名詞」の重要性

韓国語の動詞性名詞（＝動名詞）とは，典型的には「tochak（到着）」，「selmyeng（説明）」などのように，「hata（する）」という形式動詞と結合して「tochak-hata（到着-する）」，「selmyeng-hata（説明-する）」といった動詞形を作ることができる名詞をいう．日本語においては，「する」と結合して動詞形を成す「到着」，「説明」など，いわゆる「サ変動詞の語幹」のことである．韓国語と日本語の動名詞やその関連現象においては，数多くの共通点と相違点が観察されており，そのため，形態論や意味論，統語論など様々な分野で盛んに議論が行われ，両言語において極めて重要な指摘がなされてきた．

従来の理論的な分析における意義に加え，動名詞及びその動詞形「動名詞＋hata（する）」は，韓国語教育の面でもその指導の重要性が極めて高いということも注目すべき点である．そもそも動名詞という語彙は，名詞と動詞，両方の性質を兼ね備えているという特性から様々な形式・構文に用いられ，特に新聞や専門書籍などの上級テキストにおける出現頻度が高い．加えて動名詞の関連形式及び構文上の用法などは，日韓両言語の間で類似点のみならず相違点も多い部分であり，日本語母語話者を対象とした上級の韓国語カリキュラムでは必然的に，綿密な指導を要する重要項目となる．

(2) 学習者の増加

日本国内における韓国語学習者は質的・量的な面において増加してきているが，日本における韓国語教育は初級・中級レベルが中心となっているのが現状である．少なくとも大学における外国語教育としては，1 年次と 2 年次に週 2 コマの授業を行う形がもっとも一般的であり，到達レベルも初級・中級止まりになることが多いと言える．

そのような状況もあって，上級レベルの韓国語教育に関する研究は相対的に少なく，市販されている上級教材も多くないのが現状であり，動名詞と関連形式の指導も，体系的に行われているとは言い難い．少数ではあるものの，日本の大学で上級韓国語の教育が実施されている状況を考えると，具体的な指導項目を想定した上級レベルの韓国語教育の方法論は，これから本格的な研究が求められる分野である．

２．研究の目的

本研究の目的は，韓国語教育の一環として韓国語の動名詞及び関連形式を日本語と対照分析し，上級学習者向けの指導方針とともにテキストの形でまとめることである．

動名詞は，新聞や専門書籍のような書き言葉，また演説・講演などの話し言葉両面において使用頻度が高い語彙群で，上級の韓国語学習では体系的な指導が必要不可欠な項目である．そのような認識から，韓国語と日本語の関連現象を記述し，日本語母語話者向けの指導を意識した対照言語学的な分析を行った上で，その内容を基に適切な指導方針を考えることを目指した．

３．研究の方法

上記の目的の下，韓国語の動名詞及び関連形式の内容から，学習者にとって重要と考えられるいくつかの点に注目し，データの収集と理論的な分析を行った．具体的な分析対象と方法は，以下の通りである．

(1) 動名詞目録の作成と関連現象の整理

韓国語の動名詞の多くは漢語由来の漢語動名詞であり，日本語の漢語動名詞と漢字構成が同じものが多数を占めている．しかし同じ漢字を用いる動名詞でも使い方が異なるものや，意味が正反対である場合があるため，使用に注意が必要な項目を語彙目録の形で整理した．また，日韓で用法の異なる形式と用法の基本的な記述，新語動名詞の収集，使用頻度を中心とした韓国語動名詞リストの作成などの作業を，日韓のコーパスや WEB 上のデータベースなどを活用しながら行った．

(2) 動名詞と形式動詞の組み合わせの分析

韓国語の形式動詞は，基本的に「hata（する）」を基本軸とし，「sikhita（させる）」が使役，「toyta（される）」が受け身の動詞形として動名詞と結合するという仕組みになっているが，その結合や使い方の様相が日本語の場合とは異なる．即ち，日韓で同様の意味を持つ漢語動名詞の例でも，結合する形式動詞の選択は日韓で食い違いが見られることがある．例えば，韓国語の「silcong（失踪）」などの動名詞は，「される」に該当する「toyta」と結合し，日本語の「失踪する」と同等の意味を表すことになる．このような例以外にも，結合する形式動詞の使い方が異なるという動名詞の例は複数存在するため，学習者から実際の誤用例を集めるとともに，韓国語の動名詞と形式動詞の組み合わせを問うテストを実施した．

(3) 漢語動名詞文の名詞化様相の分析

漢語動名詞の名詞化形式は，新聞の見出しなど，多くの情報を圧縮した形で伝える場合，頻繁に用いられる．例えば「介護ロボットを現場で活用できるようにするため，3 年以内に商業化する」という意味の文を名詞化すると，日韓の例は次のようになる（下線部は動名詞）．

<例 1>

日：介護ロボットの現場での<u>活用</u>に向けた 3 年以内の<u>商業化</u>

韓:간호로봇/현장/<u>활용</u>/위해/ 3 년내/<u>상업화</u>

（介護ロボット/現場/<u>活用</u>/のための/3 年以内/<u>商業化</u>）

このように動名詞が用いられた文を名詞化する場合，複数の文法現象における日韓の違いが関わっているものと考えられる．本研究では新聞の見出しと記事を分析し，動名詞と助詞の使用様相を中心として観察を行った．

４．研究成果

(1) 関連事象の記述とデータの整理

日韓の動名詞において違いを示す主な現象を整理し，具体的な例と共に記述した．また，韓国語の動名詞を使用頻度優先でリストアップし，対応する日本語の動名詞とともに指導目録としてまとめた．加えて，過去数年の韓国語の新語目録から動名詞を抽出する一方，ネットなどで例を収集してリストを作成した．

新語の調査結果，韓国語では特に「-hata」の形を取って動名詞化することが動詞を造る主な造語手段であると考えられ，近年急激に使用が増えているSNSなどで用いられる俗語が多く見られた．このような俗語は，日常生活で接することによって「理解語彙」として覚えるだけで十分であり，「使用語彙」として授業で指導する必要はないと考え，上記の「指導目録」には加えていない．

(2) 動名詞と形式動詞の選択

実際の学習者を対象に動名詞と形式動詞の組み合わせを問うテストを行った結果，テキストで「動名詞＋形式動詞」の形が提示された動名詞に関しては概ね正解できるものの，テキストで用いられていない動名詞（形式動詞との結合形ではなく意味だけ提示される）に関しては，日本語の規則に基づいた判断を行っている傾向が見られた．

また形式動詞の選択と関連し，韓国語の「hata」は，受け身や使役などのヴォイス変化がないまま「toyta」と交替したり，「sikhita」と交替したりする現象があり，これは動名詞の意味内容によって影響されることが多い．即ち，「hata」との結合を基本軸としながらも，意味的に自発的な出来事を表す動名詞の中には、「hata」のみならず「toyta」とも結合しやすいものがあり（例：cungpal 蒸発），何かの状態変化を表す他動詞的な動名詞の中には「sikhita」とも結合しやすいという傾向が見られる（例：wanseng 完成）．無論，韓国語の母語話者は，どのような動名詞の時にどの形式動詞が交代できるかを直感で判断するが，この感覚が分からない学習者は，母語である日本語にならって，選ぶ形式動詞が固定化する傾向が見られた．例えば「緊張」の場合，韓国語では「緊張-する」という意味で「kincang-toyta」のように，「toyta（される）」が用いられる場合がある．また，その方が自然であると判断されるような例文もあるが，いずれにおいても，学習者は「hata」を固定的に使用し，場合によっては不自然な結合形を作ってしまうということが観察された．

まとめると，動名詞と結合する形式動詞の使用は，日本語の場合「する」「される」「させる」という対立は受け身と使役という文法的な活用形の対立となるが，韓国語では動名詞が示す事象の意味内容に影響されるため，「hata」との結合を基本軸としながらも，一部の動名詞においては形式動詞が交替するという例が見られる．またこれは，厳密な文法活用による区分ではないため，個人の言語感覚によって判断が異なることもあるような，比較的「ゆるい」基準である．

このことから，形式動詞の交替を示すような動名詞を指導する際は，「hata」との結合形を提示した後，交替可能な動名詞の例を同時にいくつか提示することによって，その間の意味的な共通点も学べるようにすることが有効であると考えられる．さらにそのような複数の例は，意味的に共通する部分を持つため，類義語の学習としても活用できる．

(3) 動名詞の圧縮的な特性

日韓両言語において動名詞は，「より短い形式により多くの情報を詰め込む」という圧縮的な形式を作るのに有効であるが，その圧縮の仕方が日韓の間で異なることが明らかになった．

動名詞は，書き言葉テキストで頻繁に用いられることは知られているが，中でも新聞の見出しや各種掲示，案内文，メモ書きなどのように，長さに制限がある形式において情報伝達を効率的に行う手段であるという側面は，相対的に注目されてこなかったと考えられる．

例えば見出しの場合，新聞の記事を簡略にまとめて短い形式で示すという働きをするが，日韓ともに全体的に動名詞が極めて多用される．

<表 1>見出しにおける漢語系動名詞の使用様相

	見出し本数	漢語系動名詞の総数
読売・国際	213	464
東亜・国際	178	315

上記の表１は，日韓の日刊紙である「読売新聞」と「東亜日報」の 2013 年 10 月の国際面記事の見出しを分析し，漢語系動名詞の使用様相を示したものである．用いられた漢語系動名詞は，ほとんどが 2 文字のもので，3 文字以上のものは少数であり，文字数では見出し全体の 10～20%を占めていた．

このような多用の傾向は，動名詞の特徴から説明することができる．まず，韓国語でも日本語でも，動名詞を見出し文の述語として用いれば，情報量の減少は押さえながらも字数を減らして全体を短くすることができる．

<例 2>

유엔 조사단,시리아 화학무기 폐기 착수

（国連 調査団，シリア 化学兵器 廃棄 着手）

例 2 で見られるように，述語として動名詞が用いられる場合は，ほとんど形式動詞が省かれた形になる．しかし，指示する事象の意味内容はほぼ動名詞が表すため，形式動詞を省いて字数を減らしても，情報量はさほど減らない．そして形式動詞をなくすことにより，それに付随する文法形式（テンス，アスペクト，ヴォイス，モダリティなどを表す活用形）をも排除できるため，より字数を減らすことができる．

さらに，形式動詞のない動名詞は形態的には名詞であることから，見出し文全体が名詞句のような単純な構造をとることもできる．即ち上記の例のように，動名詞やそれと共起する各成分がただ横一列に並べられるという単純な構造が作られることにより，より情報伝達が効果的になるのである．

一方，このような見出しの中の動名詞句において，日韓の間では助詞の使い方に違いが見られた．日韓ともに見出しでは通常の文章に比べて助詞が省かれる傾向が強いが，今回の研究では，日本語に比べて韓国語でその傾向がより目立つという結果が観察された．

<表 2>見出しにおける助詞の使用様相

	見出し本数	使用助詞数	助詞なしの見出し
読売・国際	213	271	40
東亜・国際	178	108	86

表 2 の通り，全般的に見出しの本数に比べた助詞の使用数は，韓国語より日本語が多かった．また韓国語の場合，助詞が一つも使用されない見出しが全体のおよそ半数に及ぶほど多かったのに比べ，日本語の場合では 1～2 割程度にとどまっていた．即ち，見出しにおいて助詞が省かれる傾向は日本語より韓国語の方がより強いが，このことを前述の動名詞句の使用様相に当てはめて考えると，学習者にとってこのように圧縮度の高い韓国語の動名詞句を正しく読みとることは，大きな負担となることが予想される．

文における助詞の役割は，述語が表す事象の中でそれぞれの参与者がどのような関わり方をするのかを示すことである．例えば，「国連の調査団がシリアの化学兵器を廃棄する」という出来事において，「国連の調査団」と「シリアの化学兵器」が「廃棄」という動名詞に対してどのような文法的・意味的関係を持つかは，それぞれ「が」と「を」によって示されるわけである．このような助詞がすべて省略された例 2 では，学習者が各成分の「役割」を把握する手掛かりがないことになる．これは学習者にとって，韓国語文に用いられた語彙全部の意味を把握していない場合でも，助詞を活用して意味を推測するという方便が使えないことを考えれば，相当の負担であると考えられる．

このように様々な機能語（助詞，活用形など）が省かれて単純化した動名詞句は，まるで「一つの語」であるかのように振る舞うことから「臨時一語」と呼ばれることがある．これは必要によって臨時的に作られる，その場限りの表現であるという性質から，辞書には登録されないが活発に生産・消費されることから，学習者が接する機会が多いものである．

従って動名詞の指導の際は，このような例を積極的に取り上げ，動名詞及びそれと共起可能な名詞の例も，コロケーションの形で提示することが必要であると考えられる．

また，最近の学習者は知らない語彙や情報を調べる際に，ネットの検索エンジンを活用する傾向が強いことから，キーワードを判断する能力は学習者側にとってニーズの高いものであると考えられるが，見出しや動名詞の「臨時一語」などの例を活用することでその力を養うことも期待できるだろう．

(4) まとめと今後の課題

今回の研究を通して，韓国語の動名詞の特徴や使い方を日本語と対照し，上級の韓国語学習における適切な指導方針を考えた．

ただし，研究を推進する途中で，本研究代表者が直接指導する上級学習者の数が研究当初より減少するという予想外の事態から，具体的な指導案を作成し，現場での活用を経てその実効性を検証する作業が不十分だったことは，今後の課題としたい．

５．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計　4 件）

①尹盛熙，日刊紙の見出しに現れる韓国語の臨時合成語－日本語との対照分析，韓国言語文化教育学会，2015 年 4 月 25 日，ソウル（韓国）

②尹盛熙，日韓の新聞見出しにおける省略と縮約，韓国日本学会，2015 年 2 月 7 日，ソウル（韓国）

③尹盛熙，日本語の翻訳字幕における省略と縮約の実現－韓国語との対照を通して，社会言語科学会，2014 年 9 月 14 日，立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）

④尹盛熙，韓国語の動詞性名詞指導の方向性について，韓国言語文化教育学会，2013 年 5 月 11 日，ソウル（韓国）

６．研究組織

(1)研究代表者

尹　盛熙（YOUN，Sunghee）
関西学院大学・国際学部・准教授
研究者番号：７０４５４７１７